

イボツツラフジ



<学術名>

Tinospora cordifolia
(ティノスポラ・コルディフォリア)

<日本名>

イボツツラフジ

<英名>

Gulancha Tinospora

<アーユルベータ名>

Guduuchi

<飲まれ方>

- ・若返り
- ・滋養強壮
- ・解熱・抗炎症・解熱
- ・アレルギー・肝・血糖

ティノスポラ(学名 *Tinospora cordifolia*)

植物の使用部位: 茎

従来の用途

東南アジアおよびインドで最も有名なハーブの一種です。催淫薬としても知られているほか、免疫システムを強化し、組織や器官に新たな活力を与えます。衰弱に伴う疾患のほとんどに対して、すべての人に安全に摂取されてきました。健康な人では活力の増進に利用されています。マレーシアでは、衰弱、消化障害、発熱、精子の衰弱、尿路感染症、黄疸、皮膚病、リウマチ、淋病、おりもの、下痢、赤痢などの数多くの症状に用いられています。

科学的研究

ラットでの研究では、この植物が血糖降下作用を有することが確認されています。誘発された浮腫やヒトの関節炎での試験により、ティノスポラの水性エキスの抗炎症力が証明されました。この植物には解熱作用があり、またモルヒネの増強剤にもなります。古くから組織を再生する特質があるとみなされ、免疫調節薬として利用されています。

医薬用途

- S 苦味強壮薬、催淫薬、強壮薬
- S 一時的な発熱、消化不良、血糖降下(抗糖尿病性)作用
- S 抗炎症作用、抗関節炎作用
- S 抗菌、抗アレルギー、肝疾患



Indian Herbal Remedies : Springerより引用
(Rational Western Therapy, Ayurvedic and Other Traditional Usage, Botany)

ティノスポラ

学名 *Tinospora cordifolia* [Willd.] Miers. ex Hk. f. Thoms

生育地

標高300mまでの、熱帯のインド全域にみられる。

古典名および一般名

アーユルベータ名: Guduuchi, Amritaa (ススルタ [MSOffice11](#) による)、Amritaka, Amritalataa, Amritavalli, Chhinnaa, Madhuparni, Vatsaadani, Tantrikaa, Kundalini, Guduuchi Sattva (デンブン)。

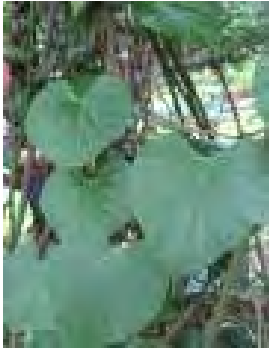
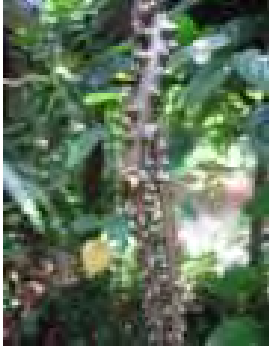
ウナニ名: Gilo, Gulanchara, Sat-e-Gilo (沈殿させたデンブン)。

シツダ名: Seenthil, Seenthil Sarkarai (沈殿させたデンブン)。

英名: Gulanchara Tinospora。

使用部分

茎、根、花。



用量

絞り液5～10ml、煎出液5～10ml。

古来の用法

黄疸が出ている場合に、Guduuchiの煎出液を冷やしてハチミツと混ぜたものか、Guduuchiの葉のペーストをバターミルクと混ぜたものを投与した(チャラカサンヒター、Ashtaanga Hridaya、Bangasena、Bhaavaprakaashaによる)。

脾腫がみられる人には、Guduuchiの根を粉末にして重湯に溶かしたものを処方した。

発熱の治療には、GuduuchiとShataavari(アスパラガス、学名 *Asparagus racemosus*)を同量ずつ入れた絞り液を与えるが(スルタによる)、不規則な発熱の場合はGuduuchiとNimba(インドセンダン、学名 *Azadirachta indica*)およびAamalaki(インドスグリ、学名 *Emblica officinalis*)の煎出液をハチミツと混ぜたものを与えた(スルタ)。

また、慢性の発熱にはGuduuchiの単一煎出液か、Guduuchiの絞り液にPippali(ナガコショウ、学名 *Piper longum*)の粉薬を加えたものを使用した(Vrindamaadhava、Bhaavaprakaashaによる)。

糖尿病による多尿症にはGuduuchiの絞り液を処方した(Ashtaanga Hridaya、Shaarangadhara Samhitaによる)。酸性胃炎には、GuduuchiとNimba(インドセンダン、学名 *Azadirachta indica*)およびPatola(カラスウリ、学名 *Trichosanthes dioica*)の葉の煎出液をハチミツと混ぜたものを処方した。

痛風、リウマチ性疾患、難治性の皮膚病の緩和には、30gのGuduuchiとShunthi(乾燥シヨウガ、学名 *Zingiber officinale*)およびDhaanyaka(コリアンダー、学名 *Coriandrum sativum*)を調合した煎出液を投与した(Vrindamaadhava、Bhaavaprakaashaによる)。痛風にはGuduuchiの絞り液、ペースト、粉薬、または煎出液の定期的な使用が推奨された。

Amrita Ghritha (Shaarangadharaによる)、Guduuchi Ghritha (Vrindamaadhavaによる)、Amrityaadya Taila、Madhuparnyaadi Taila (チャラカによる)は、痛風用の特別な調合薬であった。チャラカによると、Guduuchyaadi Ghrithaは特に咳に効いた。

Guduuchiの絞り液(根と花の液を含む)を、Manduukaparni(ツボクサ、学名 *Centella asiatica*)の絞り液、Yashtimadhu(ヨーロッパカンゾウ、学名 *Glycyrrhiza glabra*)の粉薬と、Shankhapushpi(学名 *Convolvulus pluricaulis*)のペーストと混ぜたものを、若返りの強壮薬として牛乳とともに処方した(チャラカサンヒターより)。Bhaavaprakaashaに記載の製剤で、Guduuchiを含むものは90種類を超えていた。

一般用医薬品のGuduuci Sattva (Bhaavaprakaashaによる)は、慢性の発熱、糖尿病、および消耗病に処方される。断続的な発熱にはtaarishtha (Bhaishajya Ratnaavaliiによる)を処方する。

Guduuchiは周期病薬や、解熱薬、また抗炎症薬としての効能があるため、数多くの一般用医薬品の製剤に取り入れられている。少しだが例を挙げると、Saarivaadyaasava (Bhaishajya Ratnaavaliiによる)、Sudarshana Churna (Shaarangadhara Samhitaによる)、Sanjivani Vati(同書)、Manjishthaadi Kwaatha Churna(同書)、Raasanaadi Kwaatha Churna (Sahasrayogaによる)、Guggulu Ghritha (Ashtaanga Hridayaによる)、Chitraka-Haritaki (Chakradattaによる)などがある。

ウナニ医学では、Sat-e-GiloはHabb-e-Tabaasheerに取り入れられており、発熱している際に処方される。Sat-e-GiloはQurs-e-Ziabetes Khaasに含まれる成分でもあり、真性糖尿病に対して処方するものである。

Seenthil Sarkarai (Guduuchi Sartvaによる)はシツダ医学の化合物であるSandana Podiの主要成分であり、真性糖尿病に対して処方する。

有効成分と薬理

蔓植物には、tinosporon、tinosporic酸、tinosporol、アルファシステロール、およびcordifolideが含まれるほか、furanoidの苦味成分、tinosporine、および4次構造アルカロイド類のマグノフロリンやtembetarineが含まれている。

葉はcordifoloneとヘプタコサを含み、茎はcordifol、tinosporidine、ペノイド、tinosporide、およびperberilinを含んでいる。茎の他の成分には、heptacosanolとβ-システロールがある。新たなフラノジテルペン配糖体であるtinocrisposidは、茎から単離される。

ティノスポラ・コルディフォルリアには、解熱薬、抗炎症薬、抗関節炎薬、抗アレルギー薬、肝保護薬、低血糖薬、および中枢神経抑制薬としての古典的な効能があるが、その多くは実験を経て確認されている(アーユルベエダおよびシツダ研究中央委員会 : CCRAS)。

ラットでは、この薬物の苦味成分が低血糖作用を生じ、組織でのブドウ糖摂取を増加させた。

またこの薬物は、ラットで解熱作用と鎮痛作用がみられた。

実験動物では、カラゲニン、5-HT、ホルムアルデヒド、肉芽腫瘍、およびアジュバント関節炎に対する有意な抗炎症活性が認められた。ティノスポラの抗炎症活性は非ステロイド性抗炎症剤の抗炎症活性に類似する。

この薬物の水抽出物は排尿量を増加させた。実験動物の血中尿素窒素が低下し、安定した数値が得られたのは4日目と5日目であった(CCRAS)。

ウサギの平滑筋では、茎の水溶性抽出物は5-ヒドロキシトリプタミン、ヒスタミン、ブラジキニン、プロスタグランジン E₁およびE₂などの作動薬の作用との拮抗がみられた。

ティノスポラ・コルディフォルリア抽出物の肝保護作用については、ラットの四塩化炭素誘発肝障害で研究されている。線維症の予防と肝組織の再生の促進に有効であることがすでに証明されている。

この薬の無毒性は急性毒性試験により明らかにされている。